

子どもの本

研究会



35周年

子どもにおはなしを
本のたのしみを!

【私の一冊】



本会の活動の可能性を考えてみる

東元 良暉



本を読むことと脳の発育。幼児期から絵本を読み、また読み聞かせを行うことは脳の発育に影響します。本を読む事でイメージをする能力を高めることが出来ます。

今回は、熊本子どもの本の研究会の活動を脳の発育という観点から考えていきたいと思います。題材として使わせて戴く本は、『人類進化700万年の物語—私たちだけがなぜ生き残ったのか』（青土社）です。地球上に最初の人族と呼ばれる種が出現して、原人、旧人、新人と進化をしてきました。しかし、ホモサピエンス以外の人族は絶滅していきました。ホモサピエンスだけが、生き残れた理由はなぜなのか？ その事を考える事によって私達自身の生き方について考えていきたいと思えます。

ホモサピエンスの最大の特徴は大腦新皮質であり、その中の前頭葉の働きです。ホモサピエンスとネアンデルタール人との一番の違いが前頭葉の発達です。よく誤解がありまして、ホモサピエンスの脳は1500ccでネアンデルタール人の脳は1600ccです。意外かもしれませんが、ネアンデルタール人の脳の方が大きいのです。では、脳も大きく、力も強いとされるネアンデルタール人がなぜ滅んでいったのか？ 答えは、ホモサピエンスはイメージが出来たからです。イメージが出来た、つまり、環境に適応する事が出来る。この事が、ホモサピエンスの発展に繋がりました。

結論として何が大切なのか？ 最近、聞くようになりましたがIYI(Intellectual Yet Idiot)という言葉があります。自分の行動を客観視して、うまく修正出来ない高学歴エリートのことです。知とは、何か？ イメージを働かせ、考える事ではないでしょうか？ 社会に出ると学校と違い答えが無い事が沢山あります。明確な答えが出る事が珍しいです。

一人一人が考えるそして、行動することが大切です。現在の情報社会では大切な事は情報の整理です。それは、情報があり過ぎてそれを精査する能力がとわれます。その様な観点からも幼児から始める絵本の読み聞かせ等はホモサピエンスが培ってきたイメージをつくる能力を高めるものに必要だと思えます。その観点からも、読み聞かせを続けて戴きたいです。

(熊本子どもの本の研究会 会員)